

中国



1 農畜産業の概況

中国の国内総生産（GDP）に占める農林水産業の割合は、9.2%（2015年）であり、低下傾向で推移しているものの、世界のGDP上位10カ国の中でインドに次いで高い水準である。また、就業人口のうち1次産業従事者は28.3%（2015年）と高い割合となっている（表1）。

中国の農林水産業の総生産額は、増加傾向で推移しており、2015年は、前年比4.7%増の10兆7056億元となった（表2）。部門別の推移を見ると、1980年に8割弱を占めた農業（耕種）は5割強まで減少した一方で、畜産業は1980年の2割弱から3割弱にまで増加している。

表1 農林水産業の経済的位置付け

（単位：億元、万人）

区分／年	1980	1990	2000	2014	2015	前年比 (増減率)
GDP	4,588	18,873	100,280	643,974	685,506	6.4%
農林水産業	1,372	5,062	14,944	60,166	62,919	4.6%
割合(%)	29.9	26.8	14.9	9.3	9.2	▲0.1ポイント
就業人口	42,361	64,749	72,085	77,253	77,451	0.3%
第1次産業	29,122	38,914	36,043	22,790	21,919	▲3.8%
割合(%)	68.7	60.1	50.0	29.5	28.3	▲1.2ポイント

資料：中国国家统计局 「中国統計年鑑」

表2 農林水産業総生産額の推移

（単位：億元）

区分／年	1980	1990	2000	2014	2015	前年比 (増減率)
農林水産業	1,923	7,662	24,916	102,226	107,056	4.7%
農業(耕種)	1,454	4,954	13,874	54,772	57,636	5.2%
割合(%)	75.6	64.7	55.7	53.6	53.8	0.2ポイント
畜産業	354	1,967	7,393	28,956	29,780	2.8%
割合(%)	18.4	25.7	29.7	28.3	27.8	▲0.5ポイント
林業	81	330	937	4,256	4,436	4.2%
割合(%)	4.2	4.3	3.8	4.2	4.1	▲0.1ポイント
水産業	33	411	2,713	10,334	10,881	5.3%
割合(%)	1.7	5.4	10.9	10.1	10.2	0.1ポイント
その他	0	0	0	3,908	4,323	10.6%
割合(%)	0.0	0.0	0.0	3.8	4.0	0.2ポイント

資料：中国国家统计局 「中国統計年鑑」

近年の畜産物の1人当たり年間消費量を見ると、豚肉を除くすべての品目で農村部の消費量が都市部の消費量を大きく下回っていることから、今後、農村部で消費が拡大する余地が大きいとみられている（表3）。

表3 畜産物の1人当たり年間消費量

（単位：kg/人）

区分／年	2013	2014	2015	前年比 (増減率)
都市部				
牛乳乳製品	17.1	18.1	17.1	▲5.5%
牛肉	2.2	2.2	2.4	9.1%
豚肉	20.4	20.8	20.7	▲0.5%
家きん肉	8.1	9.1	9.4	3.3%
農村部				
牛乳乳製品	5.7	6.4	6.3	▲1.6%
牛肉	0.8	0.8	0.8	0.0%
豚肉	19.1	19.2	19.5	1.6%
家きん肉	6.2	6.7	7.1	6.0%

資料：中国国家统计局 「中国統計年鑑」

2 畜産の動向

(1) 養豚・豚肉産業

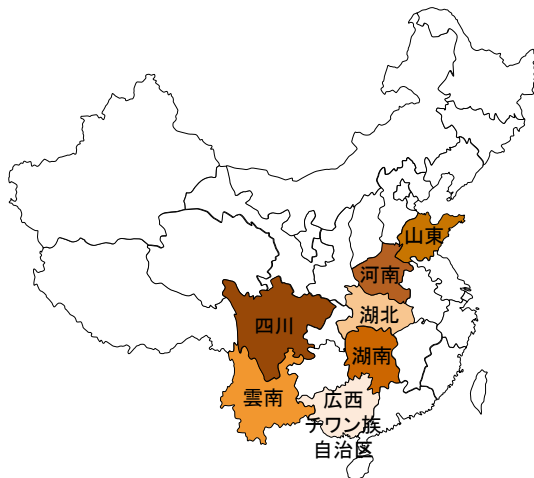
豚肉は伝統料理で多く使われる重要な食肉であり、中国の食肉生産量の約3分の2を占めている。国際連合食糧農業機関（FAO）によると、2014年の中国の豚肉生産量は世界第1位であり、第2位の米国の5倍強、全世界の生産量の約5割を占めている。

① 養豚の飼養動向

地域別に飼養頭数を見ると、華中地域や西南地域で多く、上位7省・自治区で全体の5割以上を占めている（図1、2）。また、出荷規模別の農場戸数を見ると、年間出荷頭数が49頭以下の農場が全体の94.6%を占めている（表4）。

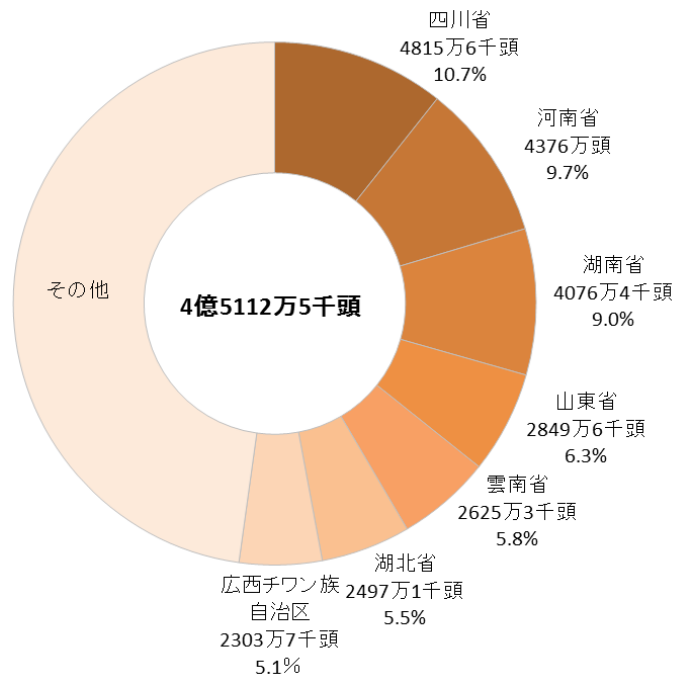
飼養頭数の推移を見ると、2012年以降、豚出荷価格の低下に伴って減少傾向で推移しており、2015年には4億5113万頭となった（図3）。

図1 地域別豚飼養頭数上位7省・自治区



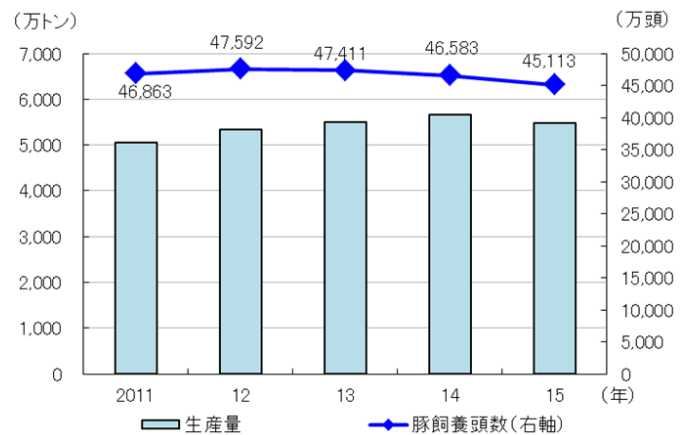
資料：中国国家统计局 「中国統計年鑑」

図2 地域別豚飼養頭数 (2015年)



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

図3 豚の飼養頭数と豚肉生産量の推移



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

表4 豚の出荷規模別の農場戸数 (2015年)

(単位: 千戸)

区分／規模	全体	1～49頭	50～99頭	100～499頭	500～999頭	1,000～2,999頭	3,000～4,999頭	5,000～9,999頭	10,000～49,999頭	50,000頭以上
戸数	46,559.0	44,055.9	1,479.6	758.8	174.1	65.2	13.4	7.3	4.4	0.3
割合	100.0%	94.6%	3.2%	1.6%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部 「中国畜牧獣医年鑑」

② 豚肉の需給動向

豚肉の生産量および消費量は、人口増加や所得向上を背景に増加傾向で推移してきたが、2014 年以降厳格化された中国共産党の「中央八項規定」（いわゆる「俵約令」）によって贈答需要や外食需要が減少したことに加え、食堂が大口の需要先となっている製造業が相次いで国外移転したことなどにより、2015 年はそれぞれ前年比 3.3% 減の 5487 万トン、同 2.7% 減の 5566 万トンとなった（表 5）。

2015 年は消費量が減少したものの、それ以上に国内生産量も減少したため、豚肉輸入量は同 35.2% 増の 103 万トンとなった。主な輸入相手先国は、輸入量の 4 分の 1 を占めるドイツのほか、スペイン、米国、デンマークなどである。また、豚肉輸出量は、同 16.6% 減の 23 万トンとなった。主な輸出相手先国は、輸出量の約 7 割を占める香港のほか、マカオ、シンガポールであった。

表 5 豚肉需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	5,060	5,343	5,493	5,671	5,487
輸入量	76	73	77	76	103
輸出量	24	24	24	28	23
消費量	5,112	5,392	5,546	5,720	5,566

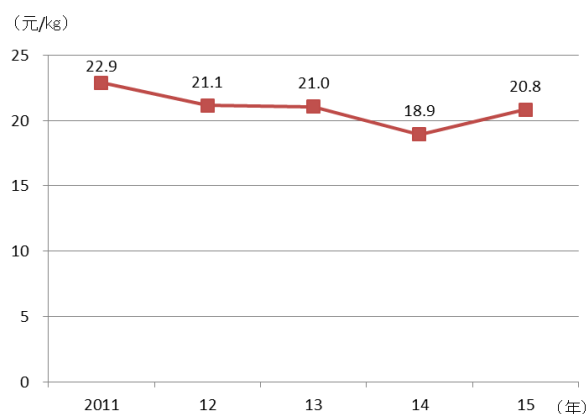
資料：生産量は中国農業部「中国農業年鑑」、輸入量および輸出量は米国農務省「PSD Online」、消費量は機構で算出

注：枝肉重量ベース。

③ 豚肉の価格動向

豚肉卸売価格は、2011 年以降下落傾向で推移し、特に 2014 年には過剰供給により大幅に下落したが、2015 年は 1 キログラム当たり 20.8 元まで上昇した（図 4）。

図 4 豚肉卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」

(2) 酪農・乳業

中国の牛乳乳製品の消費は、人口増大や所得向上、健康志向の高まりなどを背景に増加傾向にある。また、2008 年に発覚したメラミン混入事件などにより、育児用粉乳を中心に輸入品への需要が高いことが特徴的である。

FAO のデータによると、2014 年の中国の生乳生産量（水牛の乳を除く）は、米国、インドに次ぐ世界第 3 位であり、全世界に占める割合は 5.6% となっている。

① 乳用牛および生乳の生産動向

ア 飼養頭数

地域別に飼養頭数を見ると、華北・東北地方で多く、上位 6 省・自治区で全体の 7 割の頭数を占めている（図 5、6）。また、飼養規模別の農場戸数を見ると、飼養頭数 9 頭以下の農場が全体の 98.8% を占める（表 6）。

飼養頭数は 2008 年ごろまで急速に増加したが、それ以降は微増傾向で推移し、2015 年は、前年比 0.5% 増の 1507 万頭となった（図 7）。

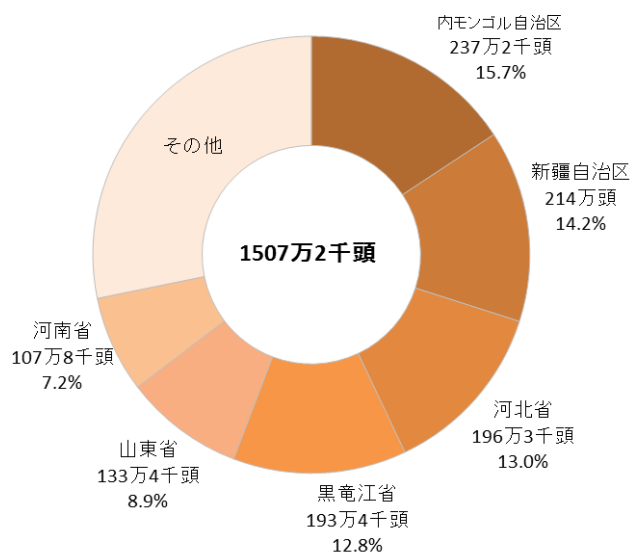
乳価を見ると、猛暑により2013年の生乳生産量が減少したことから、2013年夏から2014年にかけて大幅に上昇し、その後、生産量の回復に伴って低下している（図8）。

図5 乳牛飼養頭数上位6省・自治区



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

図6 省・自治区別乳用牛飼養割合（2015年）



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

表6 乳用牛の飼養規模別農場戸数（2015年）

（単位：千戸）

区分／規模	全体	1～4頭	5～9頭	10～19頭	20～49頭	50～99頭	100～199頭	200～499頭	500～999頭	1,000頭以上
戸数	12,389.8	12,039.1	199.7	84.1	40.3	13.0	6.2	3.8	2.2	1.5
割合	100.0%	97.2%	1.6%	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		1,301,609	239,993	100,932	45,552		7,567	4,016	2,370	1,426

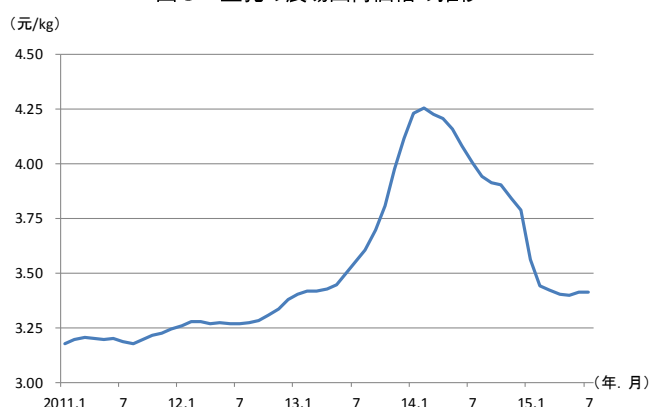
資料：中国農業部 「中国畜牧獣医年鑑」

図7 乳用牛飼養頭数と生乳生産量の推移



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

図8 生乳の農場出荷価格の推移



資料：中国農業部

注：主要生産省・自治区（河北、山西、内モンゴル、遼寧、黒竜江、山東、河南、陝西、寧夏、新疆）における農場出荷価格の平均。これら10省・自治区で生乳生産の8割を占める。

② 牛乳乳製品の需給動向

近年、都市部では、健康志向の高まりなどによりヨーグルトの消費が増加しており、2008年に発覚したメラミン混入事件以降続いていた乳製品消費の減少傾向が止まったと考えられている。

国内の乳業メーカー各社は、メラミン混入事件以降、特に育児用粉乳や高級ヨーグルトの原料として、国産品を敬遠し輸入品の使用を増やしてきた。輸入量は、今後も消費者の輸入ブランドへの信頼性の高さなどによって増加基調で推移すると予測される。

乳製品のうち全粉乳（育児用粉乳、還元乳やヨーグルト、アイスクリーム、焼き菓子などの原料として使われる）の需給を見ると、2015年の消費量は、前年比3.5%増の191万トンとなり、これに伴って生産量は前年比19.8%増の162万トンに増えたが、輸入量は2013年から2014年にかけての大量輸入で在庫が積み上がっていたため、同48.3%減の35万トンとなった（表7）。主な輸入相手国はニュージーランドであり、同国はF T Aによる関税削減の恩恵を受けて9割のシェアを占めている。

表7 全粉乳需給の推移

（単位：万トン）

区分／年	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	110	116	120	135	162
輸入量	33	41	62	67	35
輸出量	0.9	0.9	0.3	0.6	0.4
消費量	144	155	175	185	191

資料：米国農務省「PSD Online」

(3) 肉用牛・牛肉産業

中国で肉用牛経営が始まったのは1990年代と言われており、主に、シンメンタールと黄牛（在来種）の交雑種が飼われている。

地域別に飼養頭数を見ると、内陸部で多く、上位7省・自治区で全体の5割強を占める（図9、10）。出荷規模別の農場戸数を見ると、年間出荷頭数が9頭以下の農場が全体の95%を占めている（表8）。

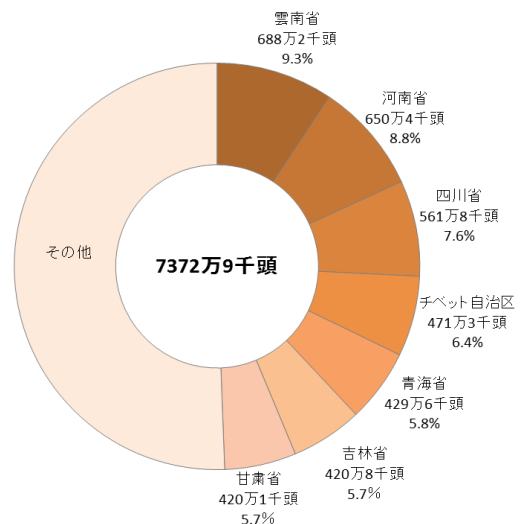
飼養頭数と牛肉生産量の推移を見ると、ともに増加傾向で推移しており、2015年の飼養頭数は、前年比4.7%増の7373万頭、牛肉生産量は同1.6%増の700万トンとなった（図11）。F A Oのデータによると、2014年の中国の牛肉生産量は、米国、ブラジルに次ぐ世界第3位（米国の約6割）であり、全世界の生産量の1割を占めている。

図9 肉用牛飼養頭数上位7省・自治区



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

図10 省・自治区別肉用牛飼養割合



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

表8 肉用牛の出荷規模別の農場戸数 (2015年)

(単位:千戸)

区分/規模	全体	1～9頭	10～49頭	50～99頭	100～499頭	500～999頭	1,000頭以上
戸数	11,038.1	10,490.2	424.8	92.9	25.9	3.3	1.0
割合	100.0%	95.0%	3.8%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部「中国畜牧兽医年鉴」

図11 肉用牛飼養頭数と牛肉生産量の推移



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

牛肉は主に都市部で消費されており、2015年の消費量は同5.0%増の764万トンだった(表3、9)。牛肉輸入量も増加しており、2015年は同59.0%増の66万トンとなっている(表9)。主な輸入相手国は豪州(3割強)、ウルグアイ(3割弱)である。

牛肉の卸売価格は上昇基調にあり、2015年は、1キログラム当たり54元となった(図12)。

表9 牛肉需給の推移

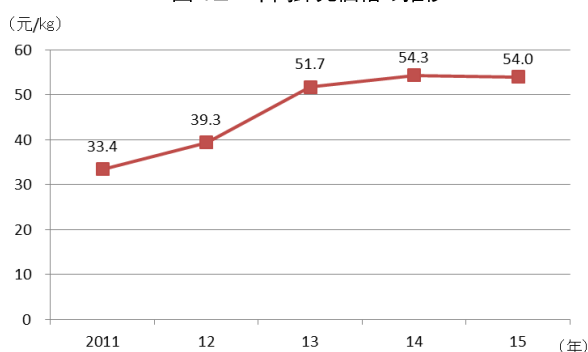
(単位:万トン)

区分/年	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	648	662	673	689	700
輸入量	2.9	10	41	42	66
輸出量	5.5	4.2	3.0	3.0	2.4
消費量	645	668	711	728	764

資料：生産量は中国農業部「中国農業年鑑」、輸入量および輸出量は米国農務省「PSD Online」、消費量は機構で算出

注：枝肉重量ベース。

図12 牛肉卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」

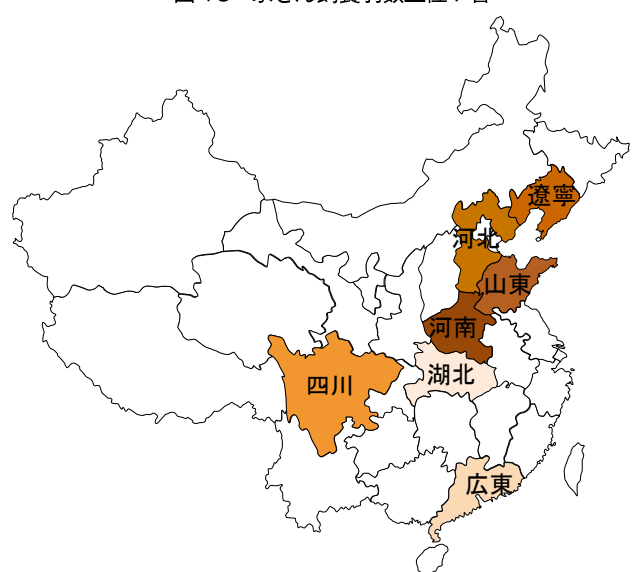
(4) 肉用鶏・鶏肉産業

中国の肉用鶏・鶏肉産業は、1970年代末の農政改革を契機として大きく発展し、鶏肉は豚肉に次いで多く消費される食肉である。肉用鶏の品種は、約半数が海外品種で、残りは在来品種(黄羽肉鶏と呼ばれる)や在来品種と海外品種の交雑種である。

地域別に飼養羽数を見ると、沿岸部で比較的多く、上位7省で全体の5割強を占めている(図13、14)。出荷規模別の農場戸数を見ると、年間出荷羽数が2000羽に満たない経営が98.1%となっている。(表10)。家さんの飼養羽数を見ると、国内での鳥インフルエンザ発生により2013年に一時的に減少したものの、増加基調で推移している(図15)。

2015年の家さん肉の生産量は、前年比4.3%増の1826万トンとなった。FAOのデータによると、2014年の中国の鶏肉生産量は、米国に次いで世界第2位(米国の生産量の約8割)であり、全世界の生産量の1割強を占めている。

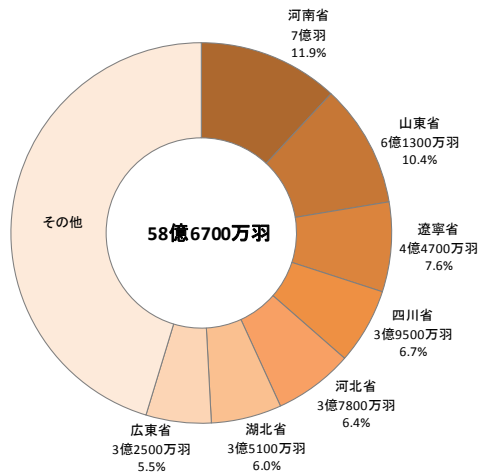
図13 家さん飼養羽数上位7省



資料：中国農業部「中国農業年鑑」

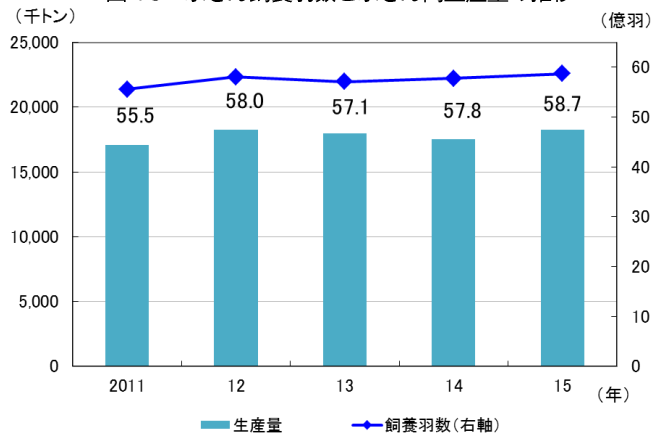
注：「家さん」はブロイラー(肉用鶏)や採卵鶏、アヒルなど。

図 14 省・自治区別家きん飼養羽数 (2015 年)



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

図 15 家きん飼養羽数と家きん肉生産量の推移



資料：中国農業部 「中国農業年鑑」

表 10 家きん（肉用）の出荷規模別の農場戸数

(単位: 千戸)

区分／規模	全体	1～ 1,999羽	2,000～ 9,999羽	1万～ 29,999羽	3万～ 49,999羽	5万～ 99,999羽	10万～ 499,999羽	50万～ 999,999羽	100万羽 以上
戸数	21,217.8	20,814.8	240.8	99.8	34.5	19.5	6.7	0.9	0.8
割合	100.0%	98.1%	1.1%	0.5%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

資料：中国農業部 「中国畜牧獣医年鑑」

鶏肉の輸出は鶏肉調製品が中心である。主な輸出相手国は日本（8割）であり、2014年に発覚した消費期限切れ鶏肉の使用問題により、2015年の輸出量は、前年比6.7%減の40万トンとなった（表11）。

鶏肉の卸売価格は、近年、横ばいで推移しており、消費者物価指数が年率1～2%程度で上昇していることを考慮すると、相対的に安価になっている（図16）。

表 11 鶏肉需給の推移

(単位: 千トン)

区分／年	2011	2012	2013	2014	2015
生産量	17,088	18,226	17,984	17,507	18,263
輸入量	238	254	244	260	268
輸出量	423	411	420	430	401
消費量	16,903	18,069	17,808	17,337	18,130

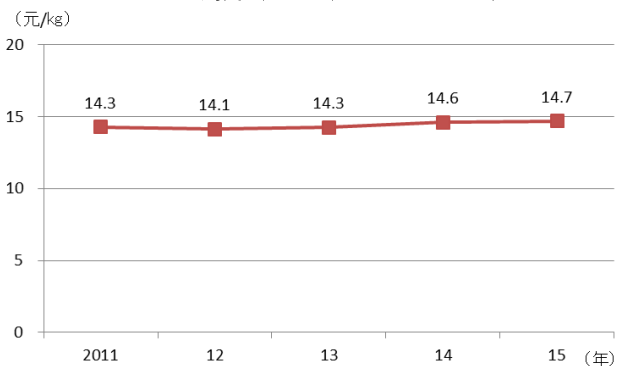
資料：生産量は中国農業部「中国農業年鑑」、輸入量および輸出量は米国農務省

「PSD Online」、消費量は機構で算出

注1：輸入量および輸出量には、鶏肉調製品を含む。

注2：枝肉重量ベース。

図 16 鶏肉（丸どり）の卸売価格の推移



資料：中国農業部「中国農業発展報告」